

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏ノ門45番地		
自己評価作成日	平成28年11月9日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2393400128-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2393400128-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニック併設のため医療面での対応は充実している。
---------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、入院設備が整っている医療機関の建物内に併設して開設されていることで、夜間を含めた利用者の急変時の際にも、医療面で柔軟に対応することができる体制が整えられている。医療面での支援が可能なこともあり、ホームでは、医師の指示を受けながら、医療的な支援が必要な方の受け入れも可能であり、利用者、家族にとっては安心して過ごすことができる環境でもある。法人の関連事業所での行事の際にはホームからも参加する等の取り組みが行われている他、母体の医療機関の看護職員による研修や職員への指導が行われており、職員の資質向上につながる取り組みが行われている。また、運営推進会議については、法人代表者でもある母体医療機関の院長が出席していることで、家族をはじめとする出席者との医療面での情報交換の機会にもつながっている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・スタッフ詰所に掲示してある。 ・実践につながっているとは思えない。	ホーム独自の理念を掲げており、理念を事務室内に掲示し、職員間での共有につなげている。また、管理者より、理念に合わせた支援につなげるように、職員への注意喚起等の取り組みが行われている。	理念はホームの支援の基本方針でもあるため、職員間で理念の共有できるように、職員会議等の機会を通じた理念の振り返りの機会をつくる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・保育園、地域ボランティアの方が月に一度来所され交流している。	ホームの運営母体でもある医療機関が、長年にわたり地域に密着していることもあり、地域の方との交流の機会にもつながっている。ホームでも可能な取り組みが行われており、近隣にある児童センターとの交流の機会がつけられている。	地域の方との交流の機会が限られた範囲となっている現状があるため、関連の事業所とも連携しながら、地域の方との交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・運営推進会議にて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・参加して頂いた方の意見をサービスに活かそうと取り組んでいる。	会議の際には、ホーム母体の医療機関の院長が出席していることもあり、医療面での情報交換にもつながっている。また、ホームから写真を活用した資料の提供が行われており、出席者にホームでの生活を理解してもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・運営推進会議、市の窓口、電話等で連携を図っている。	市内の介護事業所が集まる連絡会には、法人の関連事業所とも連携しながら参加しており、情報交換につながっている。また、市の介護相談員の訪問が得られており、意見交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・夜間帯一時的に施錠をすることはあるが、それ以外の時間帯は行っていない。 ・身体拘束を行わずケアしている。	身体拘束を行わない方針を掲げており、ホームのフロアから階段を利用して移動できるため、職員間での見守りが行われている。また、ホーム母体の医療機関の看護職員による研修や指導も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・常に意識し防止に努めている。 ・月一回の勉強会にて各自再確認している。 ・職員間で不適切なケアについて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・機会があれば学んでみたい。 ・ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・来所時、声を掛け家族のニーズがあれば、管理者を含めスタッフ間で共有し、運営に反映出来る様に努めている。 ・運営推進会議においても意見等を尋ねている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、母体の医療機関にも伝えることができる。また、今年度より、ホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・ミーティング、個人面談で聞く機会を設けている。	ユニットで職員会議を行っている他にも、日常的な申し送りを通じた意見交換の時間を取るように取り組んでいる。職員からの意見等は管理者が取りまとめ、ホーム母体の医療機関の責任者に伝えられている。	職員間での役割分担を浸透させる取り組みをはじめ、新たな職員研修の内容等、職員の資質向上につながる取り組みの継続にも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・努めている。 ・事業主に委ねる。 ・努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・月一回の勉強会を行っている。 ・認知症介護実践者研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・あまり出来ていない。 ・職員が他の事業所の方と接することはほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・本人の声に耳を傾け関係性を築こうと努力している。 ・不安の軽減や要望に近づけるようコミュニケーションを図りながら寄り添える努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要としている事を優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・暮らしを共にする家族という気持ちを意識し心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・家族との情報共有に努めている。 ・居室に写真を飾り、家族を意識できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・面会に来られた友人の方へ感謝の気持ちとまた来ていただける様な声掛けを行っている。	利用者により、入居前からの関係を継続している方がおり、ホーム母体の医療機関への受診の機会に会う等の交流が行われている。また、近隣からの入居している方については、ホーム近隣にある美容院を利用する等の交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・レクリエーションや会話に職員も関わり孤立しないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・お見かけした時には声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人の生活のペースを大切にし、思いや意向の把握に努めている。	利用者に関する意向等の情報交換については、日常的な申し送りを通じたミーティングを通じた情報交換と共有が行われている。また、毎月のカンファレンスの取り組みも行われており、利用者に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・会話等接する中でご本人からお聞きしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のケアでの気づき等、スタッフ間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・できていない。	利用者の身体状態等にも合わせ、6か月での介護計画の見直しが行われている。モニタリングについては、計画作成担当者により3か月での実施が行われている。日常生活の分野に分けた計画の内容をつくっており、職員間の共有が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・申し送りや記録の記入にて職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・あまり行えていない。 ・少しずつ行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・クリニック併設の施設なので医師、看護師と常に支援している。	ホーム母体の医療機関の医師による医療面での支援が行われており、利用者の身体状態等に合わせた対応やホームからの受診支援が行われている。また、母体医療機関の看護師による利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・行えている。	医療面での支援を行いながら、ホームでの看取り支援が行われており、ホームで看取りを行った経験もある。家族とは利用者の身体状態等に合わせた話し合いが行われており、母体医療機関の医師からの説明等の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・まだ十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災自主検査を月に一度行っている。	年2回のホーム単独での避難訓練が行われており、通報装置の確認等が行われている。ホームが建物の3階に開設されているが、職員間の連携を重視した取り組みが行われている。また、日常の食材を通じた備蓄品の確保が行われている。	ホームが建物の上階に開設されている事もあるため、関連事業所との連携を行った訓練の実施をはじめ、地域の方との協力関係の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・日々、心掛け対応している。 ・個々に合わせた言葉かけた対応をしている。	ホームの運営理念の振り返りの機会をつくっている他、接遇面に関する勉強会等の取り組みを行っている。また、日常的にも、職員による言葉遣い等の対応で気になった際には、管理者からの注意喚起の取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・会話やコミュニケーションを行い、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・生活ペースの強要や行動を制限せず支援している。 ・出来るだけ本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・着る服を自分で選んで頂いたり、身だしなみには気を付け、衣類が汚れていたら、その都度、替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・一人一人の好みを活かしメニュー作りをしている。	昼食は母体医療機関の厨房により提供されているが、朝食と夕食はホーム職員により提供されている。利用者の身体状態等に合わせた食事形態の提供も行われている。また、行事等に合わせた食事の提供やおやつ作りの取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・体調や個人に応じて個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・自立している方以外は介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。日中はトイレ誘導を行っている。	排泄に関する記録をユニット毎に検討しており、記録用紙の様式が異なっているが、利用者毎に排泄記録を残していることは共通している。記録用紙に利用者毎の排泄時間の傾向にチェックを入れることで、トイレへの排泄につなげる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・食事、水分量に気をつけ適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・本人の希望に応じ行っている。 ・入浴予定表はあるが、本人の意志を尊重し柔軟に対応している。	ホームでは、週4日のうちの2回の入浴が行われている。ユニットで浴槽が異なっており、特殊浴槽が設置されてあることで、利用者の身体状態に合わせた対応も行われている。また、入浴剤を入れたり、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・空調に配慮し、個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤情報が常に見られるようにファイリングしており、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・レクリエーション、足浴等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	・ご家族と外出される方が多い。	ホームの状況等にも合わせながら周辺の散歩等の取り組みが行われている。季節に合わせた外出行事の取り組みが行われている。また、誕生日等に合わせた個別の外出の取り組みも行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・本人、ご家族の希望で少額所持している方はいる。 ・ご家族から預り金という名目でお金を預かり、必要時使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・毎日、掃除を行い清潔が保てるよう努めている。 ・季節の花を飾ったり、フロアーの壁飾りを季節毎にかえている。	ホームのリビングについては、ユニットにより広さや窓の大きさが異なっており、雰囲気も異なったものとなっている。季節に合わせた飾り付け等は、両ユニットとも行われており、季節感に配慮した取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・ソファを置きそこで気の合った方と過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・使い慣れた物を持ち込んで利用している。 ・茶わん、はし、コップも使い慣れた物を使用している。	居室についてもユニットにより広さや窓の大きさ等が異なっており、ユニットの雰囲気に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により、使い慣れた家具類の持ち込みや好みの本等の持ち込みや写真を飾っている方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレの場所をわかりやすい様に大きな文字で表示する等、安全に暮らせるように努めている。		